

7月 臨時教育委員会会議録

- | | | |
|---|-------|-------------------------------------|
| 1 | 日 時 | 平成30年7月12日(木) 午後2時から午後3時10分 |
| 2 | 場 所 | 磐田市役所西庁舎 特別会議室 |
| 3 | 出席委員 | 村松啓至教育長 秋元富敏委員 青島美子委員 杉本憲司委員 鈴木好美委員 |
| 4 | 出席職員 | 小澤一則学校教育課長 天野隆学校教育課主幹兼指導グループ長 |
| 5 | 傍 聴 人 | 0人 |

1 開会

2 議事

(1) 議案第40号 「中学校用教科用図書等の採択について」

○議案第40号は「中学校用教科用図書等の採択」に関する議案のため、共同採択地区の袋井市及び森町教育委員会の審議に影響が出る可能性があることから、地教行法第14条7項の規定により、本議案に係る審査は非公開で行いたいどうか。

また、議事録については、静岡県のホームページに教科書採択結果が公表される、9月1日以降に公表することによいか。

《一同同意》

○本議案に係る審議を非公開とする。

第40号「中学校用教科用図書等の採択について」の審議に入る。

審議に先立ち、事務局から説明がある。

○教科用図書採択のこれまでの経過説明。

無償措置法第12条第1項により採択地区を設定し、共同採択をすること。

同法第13条第5項により採択地区内の市町教育委員会は、協議し種目ごとに同一の教科用図書を採択しなければならないこと。

同一採択地区内の市町教育委員会の間で協議を行う方法として「地区教科用図書採択連絡協議会」を設け、採択案を協議し、建議すること。

中学校の教科用図書「特別の教科 道徳」等について、協議をする。

教科書採択においては、磐田、袋井、森町を同一採択地区として、各市町の教育長、校長代表、PTA代表で組織された連絡協議会が組織された。

第2回連絡協議会では、教科書研究委員より調査研究の報告を受け、同一採択地区における教科書採択案を決定した。本日はその採択案を協議し、決議する。

資料の説明。5種類。

臨時教育委員会冊子、研究委員会報告書、教科書見本本巡回調査研究まとめ、教科書展示会意見書、平成26年度教科書調査研究報告書がある。

臨時教育委員会の資料、表紙裏には、現在使用している教科用図書一覧を載せてある。次に今後のスケジュールを載せてあり、その次からは、調査研究の観点が載せてあり、1は「内容」2は「組織、配列、分量」3は「生徒の発達の段階への配慮」を表している。

平成30年度教科書研究委員会研究報告書は、研究委員が4日間をかけて、県の教科用図書専門調査委員会から出されている教科用図書採択基準等によって、すべての教科書を調査研

究し、研究報告書を作成した。

平成 30 年度教科書見本本巡回調査研究まとめは、教科用図書見本本を磐周地区全中学校に巡回し、各学校から出された報告書をまとめたものである。

平成 30 年度教科書展示会意見書について、磐周地区では、磐田市立中央図書館と森町立図書館が教科書センターとして指定され、6月から7月にかけて教科書の展示が行われた。これは、一般の方から寄せられた意見・感想である。

平成 26 年度教科書調査研究報告書は、小学校の教科書について、平成 26 年度に調査研究した報告書である。

道徳の教科用図書見本本が準備してある。

報告は、指導主事が連絡協議会で推薦する採択案、及び採択理由を述べる。

○磐田周智地区教科用図書採択連絡協議会より提出された資料をもとに、採択案の報告後、採択を行う。報告をお願いする。

○平成 27 年 3 月に学校教育法施行規則が改正され、それまでの「道徳」が「特別の教科 道徳」となり、指導要領の一部改正も行われた。これまで、道徳の時間を道徳教育の要として学校の教育活動全体を通じて行うという道徳教育の基本的な考えは引き継ぎつつ、より要として道徳の時間が有効に機能することが不可欠であるとされた。特別の教科となることで、教科書が採択され、適切な教材を用いて確実に指導を行い、指導の結果を明らかにしてその質的な向上をはかることができるようにするという意図である。

また、道徳教育の改善に関する議論の発端は、いじめ問題への対応であり、道徳教育を通して、個人が直面する様々な状況の中で深く物事を見つめ、自分はどうか、自分に何ができるかを判断し、そのことを実行する手立てを考え、実践できるようにしていくなどの改善が必要とされた。その中で、発達の段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の生徒が自分自身の問題として捉え、向き合う「考える道徳」「議論する道徳」への転換が図られた。

この流れの中で中学校「特別の教科 道徳」の初めての検定教科書には、8 者の教科用図書が候補となった。どの教科用図書も指導要領に則り、魅力的で力のある教材が収められていた。磐周 2 市 1 町で使用する教科書として、どの教科用図書が最も適切であるか、討議を重ねた。その中で、生徒にとっても学びやすく、教員にとっても授業が組み立てやすいという観点で検討した。

それでは、報告書をご覧いただきたい。報告書を読み上げる。

2 東書 新しい道徳

1 スポーツ選手、漫画、新聞、震災等、さまざまなジャンルの教材があり、生徒が興味や関心をもって取り組める構成となっている。

2 いじめ問題対応と生命尊重に関しては、ユニット構成となっており、一つのテーマを深く考えられるようになっている。役割演技を通して考えを深める工夫がされている。

3 巻末にホワイトボード等があり、生徒の主体的・対話的な活動につながる工夫がされている。

11 学図 輝け 未来 中学校 道徳

1 内容項目と関連させながら、10 のポイントを設定し、現代的な課題について、生徒自身が考える内容となっている。

2 教材の初めに内容項目と主題、終わりに導入・展開・終末時の発問が書かれており、生徒が何について学ぶのかが明確である。各教材の後ろにある「学びに向かうために」により、自分の考えを広げたり深めたりできるようになっている。

3 内容項目ごとに学んだことを記入するページがあるので、生徒自身が自分の変容を確認できる。

17 教出 中学道徳 とびだそう未来へ

1 いじめや生命等の内容に加え、障害者問題や死刑制度の是非等、現代の様々な課題を取り扱っている。

2 教材の初めに「導入」、終わりに「学びの道しるべ」を設け、生徒が主体的に学習できるようになっている。役割演技を通して考えを深める工夫がされている。

3 各学年の冒頭に学び方のページ、巻末に次年度につなげるページがあり、学年間のつながりを大切にしている。

38 光村 中学道徳 きみがいちばんひかるとき

1 生徒が自分と重ね合わせて考え、話し合いをしたくなるように同年代の登場人物や、悩み葛藤を乗り越える人物の教材が多い。

2 教材毎に「てびき」が配置され、テーマがわかりやすく、学びが深まるよう段階を追って発問がされている。

3 1年間を四つのシーズンに分け、時期や心の成長に合わせて、教材が配置されている。彩度を低くした挿絵は、じっくり考えを深める手助けとなっている。

116 日文 中学道徳 あすを生きる/道徳ノート

1 各教材の初めに主題と中心人物または作者が示されており、誰についてどのようなことを学ぶのか、共通の視点をもって読み進めていくことができる。参考やコラム等を設け、内容項目について、多面的・多角的に考えられるようになっている。別冊の「道徳ノート」は教科書の発問と同じ構成であり、友達の考えも書き込めるようになっている。自己・他者理解を深められるように工夫されている。

2 1年間を導入期・発展期・充実期に分け、他の教育活動との関連を踏まえて、資料を配列している。生徒が道徳を学ぶ必然性ももてるように工夫されている。問題解決的な学習・体験的な学習が適切に配列され、生徒たち自身で、主体的・対話的で深い学びができるようになっている。

3 中学校3年間の発達段階を考慮し、将来へとつながる生き方が追求できる内容となっている。教材の内容理解に役立つ図表や資料が豊富である。見開き全面に写真を掲載したり、教材の内容に合わせイラストのタッチを変えたりしている。視覚面から、生徒の興味や関心を引くように工夫されている。

224 学研 中学生の道徳 明日への扉

- 1 偉人、現在も活躍しているスポーツ選手などを取り上げた教材があり、生徒にとって親しみやすいものとなっている。
- 2 「生命の尊さ」「よりよく生きる喜び」について考える教材が充実しており、様々な角度、分野から命について考える授業が展開できるようになっている。
- 3 A4サイズであるため、脚注や写真などの情報が豊富であり、生徒が理解をより深めやすくなっている。

232 廣あかつき 中学生の道徳

自分を見つめる1/ 道徳ノート

自分を考える2/ 道徳ノート

自分をのばす3/ 道徳ノート

- 1 問題解決的な学習を促す教材が多く、生徒が自ら考え、話し合いに参加したくなるようになっている。「道徳ノート」を併用することで、内容項目が明確になるとともに、考えを広げていくことができる。
- 2 教材最後に「考える・話し合う」があることで、目標がわかりやすく、問いに沿って考えていくことができる。現代的な課題には、生徒が関心をもったり、共感したりして学んでいくことができる。
- 3 サイズはAB版を用いることで、ゆとりが生まれ見やすくなっている。特に1年生の文字は大きく、読みやすいよう配慮がされている。

233 日科 道徳 中学校

1 生き方から学ぶ

2 生き方を見つめる

3 生き方を創造する

- 1 情報や人権、日本の伝統文化など、現代社会において課題となるものを取り上げた教材が多い。
- 2 巻末に1年間、または3年間の学びを振り返るページを設けてあるため、自分の心の成長を確認できるようになっている。
- 3 3年間を通して、同じ主人公が登場する教材があり、生徒が主人公の気持ちや葛藤を共有し、自己と重ねて考えを深めることができる。

それぞれの教科用図書を研究した結果、この地区にふさわしい教科用図書は、日本文教出版の教科書であることを報告する。

理由を述べる。

第1に、内容面での学びやすさ、教えやすさがある。具体的に説明する。

まず、全て教材の最後に「考えてみよう」として、ねらいに迫るための発問例が示してある。

更に、「自分にプラスワン」として、学んだことを生かし、自分を客観的に振り返るための発問例が示してある。他者に比べ、全ての教材で統一して二つの発問例だけが示してあるこの教科書は、教員が授業を組み立てやすく、また、創意工夫もしやすいと考える。更に、「プ

ラットフォーム」というコラムも充実している。1年生 34, 35 ページを説明する。ここには、いじめの構造について詳しい資料が提示してある。生徒はこのコラムを通して多様に思考を広げられると考える。

また、各教材のはじめに主題と中心人物が示されているため、どのようなことを学ぶのか、どのような人物が登場するのか、共通の視点をもって読み進めていくことができる。

1年 146 ページ「裏庭のできごと」を説明する。この教材では、三人の登場人物のうち、健二の心の葛藤から自立と責任について考える。はじめに三人の人物が示してあることで生徒は全体を把握し、考える手立てとなる。この時間のテーマとなる「誠実な生き方」もはじめに示してあることも効果的な学習につながる。

別冊「道徳ノート」についても説明する。1教材 1 ページ、35 教材について、教科用図書と同じ「考えてみよう」「自分にプラスワン」がカラーで示されている。自由度の高いノートになっているが、分量が抑えられていることで、十分に考えたり話し合ったりする時間もとれ、教員は、毎回の授業で無理なく、効果的に活用でき、生徒も自分の学びを蓄積していく道具になる。このように、内容面での学びやすく、教えやすい教科書であるという点が第 1 の理由である。

第 2 に、3 年間を通して現代的・社会的な課題へ十分に配慮した配列がされている点がある。具体的には、1年生の 4 ページ「この教科書で学ぶテーマ」を説明する。11 の重要なテーマが示してあるが、特に『いじめ』と向き合うについては、この教科書では力を入れているテーマである。各学期で充実した学習ができるよう工夫がされており、例えば 1年 28 ページから 49 ページまでが、「公正公平」「友情」「向上心」など、いくつかの内容項目を組み合わせ、ユニットとして「いじめ」を多角的に考えさせる構成となっている。

いじめの対応については、磐周の小中学校で、特にいじめが深刻な課題になっている訳ではないが、全ての学校が、真に一人一人の子どもを大切にされた教育を進めていることや、全ての生徒にとって魅力ある学校づくりを進めていることにつながる重要な点だと考える。

更に、教材の配列は、実際の学校生活や他の教育活動とのつながりも考慮されている。各学年の目次を説明する。各学年、1 学期は、希望や目標をもたせることや、新しい学級での望ましい人間関係の形成やいじめの未然防止について配慮されている。2 学期は、発展期として規律の確保や集団生活の向上が考慮されている。3 学期は 1 年間のまとめと次年度への飛躍を意図した教材が配列されている。

加えて、体験的な学習や問題解決的な話し合い学習が年間の流れの中で無理なく効果的に位置づけられている。例えば、2 年生 2 学期は、生徒会や部活動で 2 年生が主体となることを踏まえた配列であり、これにより、生徒は道徳科で学んだことをより学校生活とつなげ実感をもってとらえることができると考える。

このように、年間を通して効果的な配列がされてある点が第 2 の理由である。

第 3 に、ユニバーサルデザインも意識され、全ての生徒にとって、学んでみたいと思わせる工夫が多数されていることである。大きく、分かりやすく、美しい写真や挿絵が効果的に並べられたり、図や資料も見やすくレイアウトされたり、色も意図を持って統一して使われたりしている。

3年生 40 ページを説明する。多くの教科書に採用されている「卒業文集最後の二行」という優れた教材であるが、筆者が過去を回想しているという設定で、時代背景や状況を生徒に実感させるには配慮が必要な教材であるが、他者がない、心に迫る挿絵を効果的に使っている。その上で、46, 47 ページには、みんなで話し合い、学び合いを深めていく進め方が、生徒にも分かりやすい形で示されている。

また、迫力ある大きな写真を大胆に配置している。例えば、2年生 72 ページ「樹齢七千年の杉」を説明する。「自然の雄大さ」という主題と教材名と人物しかない。2 ページ見開きの迫力のある写真で、77 ページの写真と合わせて、生徒の心情に訴えるものがある。

更に、挿絵も、この教科用図書は、より生徒の心に迫るよう工夫がされている。例えば、2年生 42 ページの「リスペクト アザース」という教材を説明する。フライを取り損なった選手の気持ちも想像できるような挿絵である。次のページには、人それぞれが個性をもっているという事も考えさせる挿絵となっている。

色使いも配慮がされており、全ての生徒にとって、手に取ったときに学んでみたいと思わせる工夫が多数されていることが第3の理由である。

以上の三つの理由から、この地区にふさわしい教科書は、日本文教出版の教科書であるとの結論に至った。

以上で報告を終わる。

【質疑】

○道徳は、国語であってはいけないと思っている。国語が好きではない子どもでも読んでみようか、考えてみようかということが大切と考えている。「あすを生きる」がよいと思っていた。中学生が好きそうな絵であったり、まんがも入っていたりする。文章を読むのが大好きな子はどんな教科用図書でもよいが、文章を読むのが嫌いな子にとっては、読みづらいものになってしまうことがある。読んでみようかなと思える内容と絵である。文章が短い。とてもよい。

いじめの1年生の資料は分かりやすくよかった。

○去年の教科書はあかつきが選ばれていて、今回この中学校の教科用図書を選ぶにあたって、小学校と中学校の教科書を選ぶ視点の違いはあったのか。小中一貫の視点ではなく、成長、学びの違いを明確に受け止めて今回の選択になっていると思うが、詳しく説明してほしい。

○教科用図書としては、どれも魅力あるものであった。あかつきと文教の共通点としては、ノートがついているということである。ただし、ノートの使い方に違いがあり、日文は時間ごとになっており、あかつきは内容ごとになっている。評価するためではなく、子どもたちと一緒に作り上げていくノートであり、一貫性がある。小中の違いとしては、より主体的に中学校で取り組んでいる工夫がされている。あかつきの方は、教師が読み込んで考えて、子どもとどうやり取りをするか考えるものになっている。日文は、子どもが読んだだけですぐに学びを始めたいと思えるものになっている。

○あかつきの方は、学びの問いかけを行っている。中学は違うということだろう。

○あかつきの教科用図書がよいものという印象を読んだときにもった。光村は、国語的な要素を感じた。日文は、中学校1年生の最初がまんがから入っているところが気になった。中学

- 校になったのだから、もう少し違うところから入ってもよいのではないかと思った。
- 光村や日科についても評価できる部分がある。日文がまんがから入っている。この位置付けはどう考えるか。
 - 各教科用図書の発行者でそれぞれ得意としているものが違っている。光村は、国語の読み物としてじっくり読めるところがある。しかし、考え議論することを意識すると、読むことに偏ってしまう。日科については、子どもたちの使いやすさの点から考えると弱い部分があった。資料については、充実していた。
まんがについては、世界に波及しているところが10,11ページにも書かれており、そういった価値がある。
 - 日科の構成はA B C Dと、このとおりに授業が進められるのか。
 - 教科用図書という名前だが、必ずこの教材を全部やって、この順番でやらなくてはいけないということではない。資料を使って授業を進めることもある。これはあくまで構成の整理上である。
 - 道徳は年間35時間である。毎週のようにある。その中で今、このクラスで起きた問題に合ったことをやるということか。
 - 適切なものを取扱う。授業時間35時間は確保する。授業は35時間以上やる。
 - 磐田市出身の樹木医が121ページに掲載されている。磐田の名前が取上げられているのがよい。
 - まんがが気になった。日本教科書が何を目的にして学ぶかがはっきり分かれていて、これがよいと思った。
 - 意見書の中でこの教科書をやめてほしいという意見があるが何か。
 - 間違って記載されている部分があった。「明日を生きる」への意見ではなくて、他の教科書への意見である。
 - 採択にこの意見が反映されたか。
 - 特に大きく影響を与えたところではない。参考にしたところである。
 - 以前の議会で教科書採択について意見があった。今年は意見があったか。
 - 特にない。
 - 昔、道徳を教科にすること自体へ反対している意見もあった。道徳は教科に向かないという意見であった。教科化については、慎重に考えて、教えるべき内容は教えていきたいと思います。しかし、教員は単一的な価値を教えるというのが道徳というふうに捉えてはない。それぞれの考えを生かしてそれぞれの生き方を考えさせる。それが道徳である。人の道を示すことは教科も何もないと捉える方もいる。まんがが多すぎるというのがある。読み物としての手ごたえがある。あかつきを読んでいると、文章自体が読み応えがある。委員は日本文教出版の教科書が、読み応えがないのではないかという意見をもっている。どちらが感情に訴えかけるかという部分を教えてほしい。
 - 考え議論する道徳というところに影響してくると思うが、文部科学省が自分たちで考えていく、自分の中に落とししていくことについては、資料にこだわりすぎないようにということが前提としてある。読み込んで資料に終始してしまわずに、自分だったらどうなのかと考え議論する部分にウエイトを置いていこうという流れがある。考えやすいという部分が日文の中にあった。子どもたちが同じ土俵にのって議論できるものである。

- 中学校の読み込みは差があると思う。読み込めない子にも対応できるものでありたい。読み込めない子にどう考えさせるか考えていきたい。
 - 内容項目を示してあって、誰が出てくるかといった写真や登場人物があり、読み込みの労力を省いている。この発行者は、美術の教科書を出しているところで、写真もイメージしやすいものになっている。
 - 登場人物をイメージしやすいというのは、今の子どもたちがまんがを読んでから本を読み込むようなものである。
 - イメージにとらわれてしまわないか。
 - 今の子どもたちはイメージからつかむ子が多い。
 - 私はそれをやるとおもしろくないし、やってはいけないと思う。
 - 原作者と対話したいところであるが、今は違う形になっている。
 - これは問題が違って、俳句が1句あればそれで1時間授業できる。文章の内容としては物足りない部分があるが、構成的には少ない量で考え議論する道徳ができるようになっている。
 - あまり引っ張りすぎると考え議論する部分がなくなる。その点で他の教科書と違う。
 - 道徳というと過去の道徳を意識して、それではおかしいのではないかとやっているが、文部科学省は、主体的に議論しながら結論ありきではないという学びのよいスタイルを示している。ただ、受け止める方が昔の道徳を引っ張り出している。
 - 子どもの参観会に行って、先生が自分で選んだ教材でよい授業をしているものがある。
 - 自作資料でかつて自身も指導を行った。
 - 身近なものを扱っていたのか。
 - 主題にあわせて作っていた。
 - 光村の教科書は、国語というか落ち着いた感じはする。
 - 日文はやりやすさという点で評価されたと思う。
 - これを通して子どもたちが幅広く議論できるかどうかが大切だと思う。それが小学校と中学校の違う部分でもあるかもしれない。
 - 毎回の1時間で無理なく効果的に活用でき、生徒も自分の学びを蓄積できると考えたときに、学びやすい教科書であると捉えた。
 - 特別の教科 道徳については「文教出版」を採択することによろしいか。
- 《一同同意》

- 磐田市は、「特別の教科 道徳」は「日本文教出版」を採択することとします。
- 小学校の他の教科用図書の採択については、教科書の新たな申請等がない。30年度使用している教科書をもう1年採択していくことでよいか。

《一同同意》

- 議案の審議を終了する。

(2) 連絡事項

- 今後のスケジュールについて説明する。
- 県採択公表は9月1日。本議事録はHPに掲載する。本日の資料はすべて回収。

3 閉会